

幼稚園小學校研究集會參加報告

先月號記録欄で御知らせしたように、去六月十二日から十七日まで、千葉縣市川市眞間小學校で幼稚園小學校研究集會が行われた。研究集會を幼稚園が行つたことは最初のこと、その成果は各方面から注目されてあるところである。茲に纂録するものは、これに参加した東京公立幼稚園代表の感想・參觀のレポードである。本號は小山田氏の分を掲げた、來月號には山村きよ氏（西櫻幼稚園）徳久孝氏（番町幼稚園）のものも掲げる。（編集部）

1 ワークショップに参加して

東京公立幼稚園代表
港区立南山幼稚園

小山田 幾子

私達は緊張の中に終つた一週間のワークショップをふり返つて、その感想をまとめて見た。あまり刺戟の多かつた一週間の感激は紙面の少い爲に充分まとめ得ず、きれぎれなものではあるが参加した一同の気持ちには皆同じで、是非共保育関係者の皆様にお伝えしたいと云ふことだつた。

東京班は四十一名でそのうち幼稚園は公立三、お茶の水大學一、竹早學藝
大學生、の僅か五名であつた。（私立幼稚園にも案内はあつたと思うが参加なさらなかつた）

まづ第一に嬉しかつたのは市川驛に立つていた大きな立看板に「小學校、幼稚園研究集會」と書かれてあり、その後會場、その他印刷物等にすべて幼稚園と小學校が肩をならべて書かれてあつた事で、とかくままこ扱いを受

けて來た幼稚園が、今回ばかりは肩身がひろく手を振つて歩けるような嬉しい氣持で第一日を迎えた。この研究集會は昨年が第一回で二回目の今年から幼稚園が仲間入り出來たわけで、幼児教育の重要性について關係當局の認識がふかくなつた事を喜ぶと同時に、又それ／＼の方面の御骨折の賜と感謝した。と同時に私達はこの機會を利用して大いに勉強し、幼稚園教育發展の爲に私達の持つ力をぐんぐ／＼のばして行かなければならないと痛感した。

三月末に研究會の實施校と指定された眞間小學校兒童の「禮儀正しい躰」